

厚生労働科学研究
(子ども家庭総合研究事業)

市町村母子保健計画書の数量的
分析による計画書改訂の評価

福島
富士子

平成14年度研究報告書

平成15年 3 月

主任研究者 福島 富士子

市町村母子保健計画書の数量的分析による計画書改訂の評価
平成14年度研究報告書

目次

1. 総括研究報告書

| | |
|--|-----|
| 市町村母子保健計画書の数量的分析による計画書改訂の評価 主任研究者 福島富士子 国立保健医療科学院 | 663 |
| 資料1 評価指標追加のための事例分析 | 666 |
| 資料2 市町村母子保健計画書の評価に用いる指標 | 685 |
| 資料3 評価指標 | 687 |
| 資料4 評価指標の信頼性に関する調査 | 688 |
| 資料5 指標に関するガイドライン | 689 |

2. 分担研究報告書

| | |
|--|-----|
| 1) 母子保健計画書の記載内容がその推進に及ぼす影響に関する研究 －計画書内容、推進状況のリンクージ分析から－ | 691 |
| 分担研究者 藤内修二 日田玖珠保健所 | |
| 2) 市町村母子保健計画にみる妊娠・出産に関する市町村の活動 | 696 |
| 研究協力者 今村久美子 国立国際医療センター | |

総括研究報告書

市町村母子保健計画書の数量的分析による計画書改訂の評価

主任研究者 福島富士子 国立保健医療科学院 公衆衛生看護部

研究要旨

本研究は、平成13年度に見直された全国の市町村母子保健計画を分析することにより、わが国の母子保健活動の基礎となる母子保健計画がどの程度改善され、望ましい要素をどの程度もっているかの現状を明らかにすることと、それにより今後の課題を提言することにある。

平成8年度に策定された母子保健計画は年度途中で策定が指示されたこともあり、市町村によりその策定プロセス、出来上がりの計画書の構成及び内容が極めてバラエティーに富むものとなった。従って、これに伴いわが国の市町村母子保健活動に大きな市町村間較差が生じる時代になってきたといえるが、世界に冠たる母子保健指標及び母子保健サービスのクオリティーを維持し発展させるためには大きな問題といえる。また、健やか親子21が地域で定着するためにもそれを保証する母子保健計画はきわめて重要であるため、本研究を通して母子保健計画書の現状を分析し、その課題を明らかにすることは今後の母子保健計画の改訂にも役立つし、国や県の指導のあり方を検討する基礎資料ともなる。今回の研究は上記の目的を持ち、全国の市町村から提出された市町村母子保健計画書を数量的に分析するために必要な評価指標の開発を行った。

1. 市町村母子保健計画書の数量的分析項目の検討

市町村母子保健計画書を数量的に分析するための調査分析シートについては、前回の評価指標35項目に、新たな評価指標15項目を追加することとした。具体的には、策定経過の記載の有無、前計画に対する評価の記載の有無、「すこやか親子21」を意識した評価指標（虐待対策、事故防止対策、思春期対策等）、ヘルスプロモーションや住民参加等の項目である。

2. 調査の信頼性検討と信頼性を高めるための調査方法ガイドラインの作成

10人の専門家により任意の10自治体の計画書を分析した予備的研究を実施したところ、前回の評価指標の35項目及び追加15項目中、ヘルスプロモーションやリプロダクティブヘルスなどについては調査員間の解釈の相違はほとんどみられなかったが、思春期の飲酒や、喫煙対策などについては調査員間で解釈に若干の相違がみられた。そのため、調査の均一性を確保するためのガイドラインを作成した。

3. 策定プロセス把握の必要性

調査内容の検討の過程で、わが国の母子保健計画書も第1次計画書に比べ、格段に構成、内容が充実してきたことが明らかになったが、策定プロセスなど、出来上がった計画書には現れない要因を解明しないと特に優れた計画書が作られた促進要因やわが国の母子保健活動の課題の明確化が不十分にしか行えない。

そこで、次年度は、策定に携わった者を対象として、訪問による聞き取り調査を追加して行うこととしている。具体的には、ヘルスプロモーション、リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダーの問題など新しい課題や概念への対応、様々な職種や団体との連携の状況などを分析する予定である。

分担研究者 藤内 修二
日田玖珠保健所
所長

笹井 康典
大阪府健康福祉部医務・
福祉指導室医療対策課
課長

守田孝恵
国立保健医療科学院
公衆衛生看護部
室長

A. 研究目的

平成13-14年度に改訂された市町村母子保健計画を数量的に分析することにより、平成8年度策定の第1次計画からの変化を評価し、わが国の地域における母子保健活動の指針たる計画の到達点を明確にするとともに、今後の課題を提言するための、全国の市町村母子保健計画書を数量的に分析するための調査分析シートの開発を目的とした。

B. 研究方法

1. 全国の市町村母子保健計画書を数量的に分析するための調査分析シートの開発

平成8年度の母子保健計画書の数量的分析を実施した際の評価指標に近年の母子保健活動の進展も踏まえた新たな評価指標を追加した、新しい調査分析シートを開発するため、下記のことを行った。

(1) 評価項目に関する文献的検討

近年の母子保健活動の進展を踏まえた新たな評価項目を追加するための文献的検討を行った。国内外の文献、健やか親子21および先駆的な母子保健活動の事例報告などをもとに調査項目として追加すべき内容を検討した。

(2) 任意に抽出した20自治体の市町村母子保健計画の改訂前後の比較分析

実際に市町村母子保健計画の策定に携わった経験を有する保健師5名及び班員により、任意に抽出した20自治体の平成8年度(第1次)計画書および平成13年度に改訂

された計画書を比較分析を行い、計画書の構成の変化、計画書の内容、追加された項目等を事例分析により明らかにした。

(3) デルファイ法による調査分析シートの作成

平成8年度の母子保健計画書の数量的分析を実施した際の評価指標に(1)、(2)により抽出された新たな母子保健計画書の評価指標を加え、班員によるデルファイ法により、より重要性が高く、客観的評価が可能と思われる項目を絞り、調査分析シートの作成を行った。

2. 計画書分析の予備的研究

作成した調査分析シートの信頼性を高めるために、実地経験3年以上の10名の保健師によって、現在までに厚生労働省に提出された97市町村の母子保健計画からランダムに抽出した10市町村の母子保健計画書を対象に、予備的調査を行った。これらにより、調査項目毎の判定結果の調査者間ばらつきを検討し、調査者間分散の大きい項目と小さい項目を明らかにし、調査項目を絞るとともに、必要な項目については調査者間のばらつきが少なくなるように調査分析ガイドラインを作成した。

C. 結果および考察

1. 市町村母子保健計画書の数量的分析項目の検討

市町村母子保健計画書を数量的に分析するための調査分析シートについては、前回の評価指標35項目に、新たな評価指標15項目を追加することとした。

具体的には、策定経過の記載の有無、

前計画に対する評価の記載の有無、「すこやか親子21」を意識した評価指標（虐待対策、事故防止対策、思春期対策等）、ヘルスプロモーションや住民参加等の項目である。

2. 調査の信頼性検討と信頼性を高めるための調査方法ガイドラインの作成

計画書分析の予備的研究を行ったところ、前回の評価指標の35項目及び追加15項目中、ヘルスプロモーションやリプロダクティブヘルスなどについては調査員間の解釈の相違はほとんどみられなかった。しかし、思春期の飲酒や、喫煙対策などについては調査員間で解釈に若干の相違がみられた。そのため、調査の均一性を確保するためのガイドラインを作成した。

3. 策定プロセス把握の必要性

調査内容の検討の過程で、わが国の母子保健計画書も第1次計画書に比べ、格段に構成、内容が充実してきたことが明らかになったが、策定プロセスなど、出来上がった計画書には現れない要因を解明しないと特に優れた計画書が作られた促進要因やわが国の母子保健活動の課題の明確化が不十分にしか行えない。

そこで、次年度は、策定に携わった者を対象として、訪問による聞き取り調査を追加して行うこととしている。具体的には、ヘルスプロモーション、リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダーの問題など新しい課題や概念への対応、様々な職種や団体との連携の状況などを分析する予定である。

D. 結論

母子保健計画書の数量的分析方法を検討し、新たな視点と方法を追加した調査方法（評価シート）を開発した。

E. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

F. 知的所有権の取得状況

1. 特許番号
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他

資料 1

評価指標追加のための事例分析

1. 計画事例の分析

1) A村

人口51000人 人口増加地域・・・森岡のベッタウン 出生率10.5

○平成8年度に既に先取り・・・ヘルスプロモーションは入り口だが、目標・評価の考え方は入っている

住民参加型・・・声を聞くことから始めよう。

エンジェルグループ・・・10×3=30人を中心に、役場職員が関わる

グループインタビュー方式 ニーズ項目の整理・把握し、さらに検討過程で必要項目を追加
目標設定化

目標の指標化

ベースラインのわからないものについてはアンケート調査の実施

評価分析シート（オリジナル）

役場の横断的なワーキンググループ（部門別計画検討委員会）

- ・施策目標
- ・具体的目標
- ・具体的条件
- ・評価指標
- ・現状と課題
- ・評価と方向性

14年度は基本的に前回は踏襲

よりわかりやすく 住民主役（ヘルスプロモーション）の観点の重視

- ・新しい施策目標の追加・・・新しい「子育て支援」を福祉ではなく保健として
- ・現状と課題について8年度からのこれまでの変化記載
- ・目標や条件と現状との平行記載・・・よりわかりやすく
- ・前回との違いを明記

・8年当初と14年、18年の推移までの連続性を担保

・事業（サービス）からの目標設定から目指すべき目標からの事業までの一貫した整理

事業から対応するのではなく、情報のやりとりや受け皿としての事業 ヘルスプロモーション
の観点

- ・何時、何を以て評価するかを明記・・・事業が手段として位置づけ
- ・全庁的な見直しの追従・・・PDCAが役場全体の流れ
- ・パラダイムシフト・・・住民主役の観点・・・サービスが情報収集や提供の場

・行政の事業で解決するのではなく、地域資源の有効活用により目標に向かってネットワーク化を図ることへ重点

個人・家庭・地域社会・市町村、県、国行政レベルでの役割と連携

・8年次は事業の確保やマンパワーの獲得に重点があった、全国の流れの影響は受けながらも、ヘルスプロモーションの入り口にはたどり着いており、今回それを乗り越えた感がある。

・保健所は一つの資源でありパートナー的感覚はない。研修会開催により支援はあったが、具体的な関わりには乏しい。

・表紙のイラストやイラストが住民向けになっている。お役所の報告書らしくない。

・感想・・・8年次事業の位置づけがやや中途半端になっていたが、14年次には、行政の事業が他の地域資源とのネットワークの中で受け皿として位置づけられており、行政の事業が住民の声や考えを聞き共有する場となっている。

2) B市

比較によって変わった点

- ・アンケート調査や現状把握に手間をかけている
- ・目標設定に広がりがある 指標も明記されている。
- ・住民主体の会議の設置がある
ただし、住民の声がどのように反映されているのか、住民の主体性は感じにくい。
- ・事業と目標設定とのずれはあり、やはり事業主導のスタイル。
- ・事業の充実が対策の根幹とされ、事業実施が目標のような感はしっかり残っている。
- ・感想・・・ヘルスプロモーションの入り口で終わっている。事業の位置づけを目標達成へつなげる点で迷いがある。
保健所のバックアップが感じられる。虐待が入っていない。

3) C市

比較によって変わった点

- ・内容が洗練され、アンケート調査等も良く行われている。
- ・健やか親子21の内容がかなりはいつて来ている
- ・住民の公募委員の参画がある
- ・全体の目標設定に広がりがある。
- ・やはり事業主導型であり、目標達成との関連があいまい。事業水準の評価できていても、満足度や目標達成へのつながりが乏しい。条件整備の点が不十分。
- ・感想・・・バックアップしている業者の力量差が感じられる。

◎新たな評価指標・・・以下のような記載の有無

- ・個人、家庭、地域・・・を区分したの役割についての表記
- ・住民へのエンパワーメントの重視
- ・住民グループの育成支援
- ・関係機関とのネットワーク
- ・子育て環境（地域資源）についての実態把握・・・行政サービス以外の
- ・具体的な策定プロセス 特徴など グループインタビュー、住民会議など
当事者やボランティア、民政委員等の参画の状況と声の反映のされ方
- ・役場内での横断的検討組織 その検討プロセス
- ・目標と事業の関連について
- ・健やか親子21の理念の挿入
- ・母子保健計画の顧客満足度など行革との位置づけ関連性など

4) D町

人口： 25000人 42平方キロ 保健師5人

表紙：前はアンケート結果に基づき、3人の子供を持つ家族の絵にした
今回は、業者に楽しそうな家族の絵をお願いした
前は母子保健計画という名称だった
ワーキングのメンバーの意見で「すこやか子育て」プランにした

挨拶：前は町長挨拶を保健婦が考えて、課長が決裁
今回は課長が起案して、町長が決裁、写真付き

目次：前回と比べ、第1章の最後に概況を入れ、第4章に評価計画を入れた
デジカメでとった町の写真をカットとして各所に配置した

計画の性格：今回はエンゼルプランとしても位置づけた

住民の声：①安心して子育てできるように、②子どもの体と心の成長を願って
この2つでまとめていった（KJ法で）

実態調査結果：前回と同じ項目も尋ねた。虐待や事故について設問を追加（合計50項目）
比較できるものについては、前回の結果と対比して表示した
中学2年生に対する実態調査を今回、追加した（学校との調整が大変）

保健統計からみる課題：前回なかったのを、今回きちんと入れた
予防接種率、妊娠届けで状況など

育児環境の課題：前は社会資源マップを載せたただけだったが、今回は、福祉サービス
についても紹介しながら、その課題を記載してもらった（福祉係に）
保健センターで役場から離れていたのを、連携がとりにくかった
← この作業を通じて、福祉との連携も進んだ
シングルマザーが増えていることも確認できた

保原町母子保健施策体系：体系図の前に理念を記載するように変更した
体系図は前回と同様に現在の取り組みと今後必要な取り組みを整理した
目標として「子どもの健康な体と心」を作るという柱を追加した

施策の方向：目標ごとに取り組みを整理した（前回の記載を少し修正した）
他の課の記載（福祉サービスなど）の表現は他課に確認しながら慎重に
療育体制の推進などが追加された

具体的な施策：前は各事業について 18 事業
現在、5～10年後、ここがポイント、評価の視点
今回は各事業について 33 事業
平成8年度、現在、5年後、評価指標と目標値
新規に始めた事業があるだけでなく、福祉サイドの事業も追加した。
福祉サイドについては担当者に記載してもらった
前は保健婦が記載していたので、簡単な記載だった

年次計画：今回、年次計画を追加した
各年度の重点事業に星印をつけてわかるようにした

ライフステージで整理した事業体系：今回は福祉サービスも記載した
前は5歳まで終わっていたが、20歳まで延長になった
どこまでのライフステージを対象としているか

評価計画：今回の見直しでつけた 計画書では2ページだけだった
評価体系図（21枚）と各事業（15事業）の評価シートは資料編に載せた

策定経過：前回と同様に資料編の最初に紹介した
半年間で、策定委員会が4回、ワーキンググループが6回
それぞれのメンバー表も前回と同様に記載している
策定委員会のメンバーの追加
福祉サイドのメンバー、薬剤師会、育児サークルから2名、保健協力会
学校長、養護教諭
ワーキンググループのメンバーの変化
保健所の課長が移動した。
評価計画に関わった保健婦も移動した。
企画商工課企画調整係、学校教育課学校教育係もはいった
メンバーの平均年齢が若返った

実態調査結果の一覧：前回と同様に掲載した

住民への周知：今回はダイジェスト版を作成して、全戸配布した
広報誌やホームページでも紹介した
毎月、進捗状況を広報誌に紹介している
ダイジェスト版にも今後取り組む事業を明記した
ライフステージごとの目標もわかりやすい表現で紹介した
第4回策定委員会で意見をたくさんもらった
ダイジェスト版や広報誌を見て、詳しく聞きたいという母親が来所

進行管理：母子保健連絡協議会を毎年1回もっている
評価のためのワーキンググループを立ち上げる予定である

策定しての感想

前回の策定は担当一人で頑張った

平成9年度には保健計画書をほとんど開かなかった

今回はみんなで話し合いながら策定できた

母親の発言の機会が多く、主体的な活動につながった

県公衆衛生奨励賞の受賞を住民に報告したら、涙を流して喜んでくれた

平成10年2月のセミナーで保健婦と指導者とのつながりができた

平成10年度の保健計画評価事業のモデル町として関わってもらえ、力量がアップした。

保健計画は何のためかという議論ができた

福祉との連携も深まった

新しく就任した町長に計画書を説明した

計画書だけでなく、学会での発表などについても紹介した

もっと役場の職員に周知すべきであるといわれた

今後に向けて

保健計画の内容にストーリー性があるといいのでは？

住民が読みやすい計画書になるのではないか

5) E町

人口 7000 人

平成 8 年度の計画書の特徴

各係の考える課題ごとに現状、基本的目標、問題解決となる施策をまとめている

地域保健、福祉、国保、幼稚園、小学校、中学校、社会教育、図書館

母子保健に関する指標の推移と目標を明記

ブレイクスルー思考で5つの目標ごとに事業体系図をまとめている

5ヶ月間に作業部会3回、策定委員会2回

事業体系図を作ったのに、課題ごとの事業計画の記載になっている

平成 13 年度の計画書の特徴

住民が読んでわかるストーリー仕立てにしている。

健康づくりの現状、町の課題、健康な町づくりに向けての指針

各ライフステージごとの暮らし

表現が一般的で、「I町」の特徴がつかみにくい。

達成したい目標値の設定

突然、数値目標が出てくる感じがする

それぞれの関係機関・団体の役割をわかりやすく明記している

基盤整備の目標値の設定

地区のみんなで目指したいテーマも明記

それに至る住民と膨大な話し合いを持っているが、それが見えないのが難点

6) F町

人口 15000人

平成8年度の計画書の特徴

オリジナルな3つの柱を立てている
それ以外は必要最小限の記載にとどまっている

平成13年度の計画書の特徴

町長挨拶がのった
エンパワーメントという言葉が趣旨に登場
計画の目標は前回の3つの目標を踏まえて作成しているが・・・
課題と取り組みは「健やか親子21」の枠組みをそのまま使っている
前回の計画の見直しと「健やか親子21」の整理がついていない様子
各指標は保健所が作成した実態調査の項目を採用している！
目標と事業との関連が整理できていないのかもしれない
自分たちにとっての保健計画になっていないような気がする・・・

7) G市

住民参加が前回以降とれたので、今回は楽だった。

「リプロダクティブヘルス」が入っている
前はエンゼルプランの要素が強かった
平成6年の少産化対策委員会がスタート

今回は健康日本21の要素を入れ一本化

策定課程の特徴

全員で成人を検討、その後母子

栄養、運動などにグループ分け

「K21プラン」

健康づくりマイシートが住民に好評

前回計画に従って事業が展開できたこと ← 発表前に財政当局の了解を得た

計画に従って事業が広がっていき、自信ができた

評価をどうしようか 利用者数、参加者数だけでいいのか

質的評価に関して不安があった

→ 今回の見直しに意欲的になった

子育てサークルの活動が活発化

保健センターを利用して組織化（月2回保健センターを自由に使える日を利用）

経費がかかる部分で応援を求められている

母子保健推進員（各行政区に1人）

現在59人

プランの推進に関しては特に役割はない

チラシの配布、乳児の訪問

市民とともに進める計画としてあまり進んでいない

ワーキンググループの委員がジレンマ

属している組織に母子保健事業を潜らせようとしても、なかなかうまくいかない

住民との対話の中で

前回は住民には唐突で使えなかった

現状と目標

今回 住民の声の集約

数値目標 前回もある程度入っていた

市長が民間出身で各課に目標を出させていた？

構成（目次）

増えたもの：評価指標、目標値の一覧

住民とともに作った策定課程を写真で紹介

減ったもの：事業計画の一覧

統計指標の数値が最初から最後に

語句の説明

表紙の絵にお父さんが登場（ダイジェスト版では父親が子供を抱っこしている）

新規事業

保健推進員（ボランティア）を制度化

ワーキンググループ33名中20名

現在活動方針を検討中

養成講座のカリキュラムも検討

ぴかぴか教室

3分間歯磨き劇場

たまごルーム（妊婦の集まりの場）

問診票の改訂作業中

廃止事業

子育て支援センターの充実に伴い「遊びの教室」を廃止

事業の方法

計画書からは読みとれないが、

前回は保健婦が必要と思うものを事業化

今回は住民の意見をもとに整理、事業化

評価

目標値で

母子保健推進員が年度末に年度ごとの評価ができるのではないかと

問診票で把握できないものをどうするか

キーワード

住民主体が分かる計画書

策定課程での市民の声を事業化

全員で成人、母子を検討

PP の表からアンケート調査の項目検討、住民参加で実施

感想

市民にいかに浸透させるか悩み

8) H町

| | 平成 8 年 | 平成 13 年 |
|---------------|---|---|
| 計画の位置づけ | 母子 | ライフステージに沿った計画 |
| 厚生省の通知を意識 | | |
| 前回計画の評価 | 誰がいつ、どのように、という具体性に乏しかった | 誰がいつどこでという反省が盛り込まれた |
| 評価の視点に気づききっかけ | 成人分野の計画（平成 11 年）で行動計画の要素が盛り込まれた | |
| 重点項目 | 虐待が入っていなかった | |
| 視点 | | 健康日本 21 の視点を盛り込んだ |
| 計画で変わったこと | 組織の関係者が計画策定に関わった 母子手帳交付時 母子推進員の紹介 (枠組みとしては確立されたが・・・) | |
| 計画書の活用 | 下の人間はあまり計画書を活用しない | 主体的にかかわったという意識があると活用している 総合計画というつくり方をすれば異動、担当が変わっても活用できる |
| 関係機関の意識 | 関係機関も「前任者」の計画という意識がある。 | わかりやすい評価指標の明示 役割の明示 |
| 一人ひとりの役割の明記 | なし | あり |
| 評価の会議 | 位置づけていなかった | 年 1 回と位置づけた（計画の進行管理という言葉で明記） 広報による掲載 地域懇談会の開催 |
| ダイジェスト版の活用 | 配りっぱなし | 保健師が地域懇談会（公民館単位）で説明 |
| 新たな記載 | | 性（以前から取り組む） 虐待（以前から取り組む） 事故防止 |
| 関係者の意識の変化 | 母子保健推進員の意識が前向きになった 童話の里というのを意識して絵本の大切さを意識するようになった | |
| 減った事業 | | なし |

| | | |
|---------------|--|---|
| 計画に基づく新しい事業 | | 事故防止 |
| 地域単位で取り組み目標設定 | なし | |
| 各人の役割 | | みんな 個人・家庭 地域 行政 学校 飲食店・販売店・医療施設・施設、 等 民間団体・企業 |
| 重点施策 優先順位 | 心豊かな子どもが育つ 子育てを支える地域づくり 親も子もふれあえる環境づくり | 優先順位の位置づけはライフステージにそって 自分流の健康ライフスタイルづくり あなたがいて、私がいる ～こころの豊かさを求めて 守り育てる「性」と「こころ」 タバコマナーでクリーンな公共施設 アルコールを考える 情報発信はあなたから 私が守る地球 |
| 策定委員の受け止め | 母子保健計画だけの議論 | 成人の話をしていても必ず母子のこころからの課題という指摘があり、母子の計画に反映できた |
| 事業 | 事業の明記はなかった | 具体的な事業が「取り組むこと」に記載された |
| 数値目標記述 | なし | あり 設定方法は5%、10%という基準で |
| 事業の方法 | | 虐待防止のための健診カルテの変更 |
| 計画策定方法 | | 母子・成人の2班に別れていたが、毎週情報交換を行った 計画策定の目的、意義、等を共有する研修会を開催した。 |

| | | |
|----------|------|--|
| | | 関係機関から意見聴取をするのも 住民が行うこととした |
| 関係機関 | | |
| 自分達のメリット | | マンパワー（栄養士）が増えた 町全体から見れば健康づくりの位 置づけは低い状況のまま 食生活分析アンケートを通して男 性を巻き込む等、事業推進に対して 積極的な人が増えた |
| 協力機関 | 協力機関 | アンケート分析協力機関があった |

9) I町

| | 平成8年 | 平成13年 |
|---------|---|--|
| 計画の位置づけ | 子育て支援計画（母子保健計画） 意図的に母子保健計画ではなく、 エンゼルプランに包括されるの として位置づけている | 同左 |
| 基本理念、等 | 事業が羅列されている | 基本理念が示され、目標と事業が つながった形になっている |
| ネットワーク図 | 記載なし | 記載あり |
| 評価 | | 変化（評価指標）は所々入っている 児童扶養手当対象者 子育て支援連絡会を通じて関係機 関との連携が取れている状況 |
| 構成（目次） | 子ども生み育てる環境づくり 親と子の健康づくり 子育てに関する相談・援助体制の 充実 多様な保健サービスの充実 関係機関及び関連組織との連携・ 支援 拠点となるべき基盤の整備とマン パワの確保、及び研修などの資質 向上 子育て家庭の生活の保障 | 基本計画 子育て情報の提供 子育て相談の場の提供・充実 親子の健康の確保 仲間づくりの場 遊びの体験の場 生活環境整備 |
| メンバー表 | あり 多くの関係者が関わっている | なし |
| 感想 | 子育て支援計画と位置づけているの が特徴 | 同左 ただし、計画の経年変化、進行管 理が見えない 保健の事業が羅列され、キーワード も盛り込まれているが全体として目 標や評価指標が明記されていない |